



編集・発行 公益財団法人 AFS 日本協会岩手支部  
 支 部 長 瀧 本 忍  
 事務局 〒028-3452  
 岩手県紫波郡紫波町片寄字四ツ屋300  
 TEL/FAX 019-673-6607  
 メール：info-iwate@afs.or.jp  
 http://www2.afs.or.jp/tohoku/morioka/  
 印 刷 (有)九戸印刷 (久慈市)

# AFS いわて

## 人生を豊かに生きるヒント

公益財団法人 AFS 日本協会岩手支部長 瀧 本 忍

支部だよりをご覧の皆様、こんにちは。今春4月より岩手支部長になりました。瀧本忍です。私とAFSとの出会いは、娘が61期生としてアルゼンチンに留学させてもらうことが決まってからです。まだまだ日は浅いのですが、私にとってAFSへの感謝の気持ちは深く、今自分に出来る恩返しだと思って支部長を務めております。

ほぼ1年前、留学から帰った娘の成長・活躍は目覚ましく、自分の道を自分で切り拓ける自信でみなぎってました。海外へ目を向けると思いきや、娘の大切にしたいのは、故郷「岩手」。三陸の復興に関するイベントや、町おこしに関する活動に次々と参加。親が新聞記事で詳細を知り驚いたのが、本人企画の岩手の将来を高校生と若手起業家が語るという故郷創生イベント。次々とネットワークを構築し、自分の世界を広げ、臆せず行動している娘に我が子ながら感心しAFSへの感謝と、人の心にそれほどまでに自信を与えるAFSの秘密を探りたい気持ちになりました。支部長を引き受けてもよいと考えた所以です。

人は、生まれつきもちあわせた気質ももちろんですが、

環境が人をつくっています。我が子の場合、生まれ育った環境しかなかったわけですが、留学という形で、親元にいるだけでは経験できない環境下に身を置き成長することができました。可愛い子には、旅をさせる！です。向き不向きもありますので誰もが留学しようと言っているわけではありません。私が皆さんにお伝えしたいのは、高校生で留学するチャンスが選択肢にあるということ、日本中の中高生やその親御さんに知っていただきたいのです。また、海外に行くことができなくても我が家にいながらにしてホストファミリーを引き受ければ、限られた環境の中にも異文化交流ができ家族に成長をもたらしてくれるでしょう。

AFSには、人生を豊かに生きるヒントがたくさん隠されています。留学するもよし、ホストファミリーになるもよし、イベントボランティアに参加するもよし、海外からの留学生を支える団体に関わるもよし。どうぞ、皆様も一緒に自分でできる小さな世界平和・社会貢献を考えていただき、小さな一歩(ちょっとしたボランティア=ちょボラ)から始めてみませんか。

### 第63期年間派遣生2名決定 (2016年夏出発)

スウェーデン派遣 川崎理亜さん 盛岡第一高等学校  
 アメリカ派遣 菅田和可子さん 盛岡第三高等学校

川崎理亜 (盛岡第一高校 スウェーデン派遣)

私はスウェーデン派遣の内定を頂きました。ここでは私の留学の目的と出発を2ヶ月後に控えた現在の心境をお話します。

私は国際的に議論されている社会問題について学ぶことを目的に留学をします。また、社会福祉先進国であるスウェーデンでは日常的に社会問題への議論がなされており、それに積極的に参加し、自分の考えを持ち発言する力を身に付けたいです。

しかし議論に参加するにはスウェーデン語の習得が必要です。それに不安を抱えているのが現在の心境です。しかし新たな人や土地との出会いへの期待はその不安に比べられないほど大きいです。残り2ヶ月間、言葉への不安を自信に変える努力をして出発しようと思います。

菅田和可子 (盛岡第三高校 アメリカ派遣)

私はこれからアメリカに留学することにすごくワクワクしています。具体的に3つの事柄についてお話します。

1つ目は大統領選挙です。日本に比べ若者の政治の関心が高い国で、その国のトップを決める選挙を直接、目で見て肌で感じることができると思うからです。2つ目は国際問題についてです。特に人権問題や戦争、格差社会について関心を持っているので、それらについてもっと理解を深めたいと思っています。3つ目は現地での生活です。日本とは違う文化の中でつくった友人や新しい家族との暮らしを楽しみたいものです。

最近、日本での生活、1秒1秒が大切に感じられるようになってきました。アメリカでの10ヶ月間頑張ってきます!

「はじめまして」

サラ (平成28年春年間受入生 不来方高校)

こんにちわ、

私はデゼック・サラです。

今年のAFS学生です! フランスから来ました。

日本の学校生活は、本当に楽しいし、新しいです。

日本で経験したいことは日本語を学びたいことと、たくさん友達をつくることです。

そして、日本の生活に慣れたいです。

よろしくお願いします。

サラ



岩手支部歓迎花見会 (2016年4月24日)

AFS 留学生ホストファミリー募集

～いちばん身近で、心に残る国際交流～

各国から来日したAFS留学生が、ボランティアの一般家庭に滞在しながら地域の高等学校に通学し、文化・社会への理解を深める、高校生の交換留学プログラムです。

◆受入対象国◆ アジア・北米・中南米・西欧・東欧・オセアニアの国々

◆ホストファミリーの条件◆ 単身でないご家庭で、ボランティアで留学生を家族の一員として受け入れ、食費を含む生活費を負担してくださるご家庭 (通学費・医療費・AFS行事参加費はAFSが、小遣いは本人が負担します)。

◆受入期間◆ プログラムにより1ヵ月、5ヵ月、10ヵ月の受入となります。

◆お申し込み方法◆ AFSホームページから「ホストファミリー申込書」を入手し、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXで岩手支部事務局にお送り下さい。



## ★みんなの声が届く政治の仕組みを学びたい★

小学校の頃はフライトアテンダントになりたかったので「大学に入ったら、語学留学をしよう」と漠然と考えていました。でも、高1の時に「留学は高校生のうちでもできる」と言われ、高校を1年間休学しマレーシアに留学しました。インド系の家庭だったのでカレーばかりでしたし、手で食事を食べる文化等、異文化の違いに戸惑いましたが、多宗教・多民族・多言語が共生するマレーシアは、本当の意味で異文化に触れる機会でした。実は留学前に東日本大震災が発生し、親が岩手の沿岸出身なこともあり、親戚が亡くなりました。それで、帰国後は防災に関わることをしようと思っていました。また、震災後の津波対策では住民の総意を反映させるボトムアップ型の政治ができていない現状、合意形成の仕組みに強い課題意識も感じていました。みんなの意見がちゃんと反映される社会なら、みんなが幸せになるはずじゃないかと。そこで、地元岩手できちんと民意形成ができるような政治の仕組みを作りたくて、政治学が学べる大学に進学しました。

## ★外からではなく、内側から★

入学後はグローバルを意識しつつ、海外の事例等に学び、地域の「外」から何かを生み出すことをやりたかったのです。自分の地元である岩手に貢献したかったのです。でも東京でのインターン先でHAN-KOHの興味深い取り組みを知り、実際に現地に入り始めてから、考



え方が少し変わりました。例えば、生徒の身近にない新しいものをいきなり「外」から持ち込むのではなく、生徒本人がふわっと考えている想いを伸ばすサポートがしたいなど。つまり、地域の「外」から何かを提供しようという考えから、その地域の生徒さんのポテンシャル、「内」と向き合いたいと考えるようになりました。これは政治の話になりますが、町づくりについても同じではないかと。地域にないものをいきなり「外」から持ち込むのではなく、その地域に元々あるものを外から協力を経て大きくしていきたい。そうやって、津和野町や地元岩手の未来を作る手伝いができたらなぁと今は思っています。

\* HAN-KOH：島根県津和野町にある町営英語塾。  
塾名は津和野藩の藩校に因む。(編者注)

## 只今留学中

## 62期フランス派遣 立川目まどか(不来方高校)

こんにちは。フランス派遣の立川目まどかです。ここまでの生活についてお伝えします。

1月にホストファミリーを変更しました。主な変更の理由としては、元ホストマザーが話したがいなかったことで家の中では一人で勉強するか、もしくはテレビを見ることしかできなかった事、それに伴う語学力の微々たる向上、そのせいで元ホストファミリーが私をいつも非難しているように聞こえて仕方なかったことが挙げられます。留学の初めからこのような大きな壁にぶつかったおかげで、今の私は留学前と比べると精神面でか



私からのホストファミリー(写真下段左から)の派遣生マドカ、続いてホストファミリーから、ホストマザー、最後にホストファミリー(兄)と猫

なり成長したと思います。この初めの4ヶ月はとても辛かったです。後悔もしました。何度も泣き、何度も自分を責めました。周囲の人々には全てが上手くいっていると嘘もつきました。

ですが、ホストファミリーを変更した今は心の底から楽しいと言えます。今のホストファミリーには、既にタイ人の女の子が受け入れ生として居ました。元々は、一週間程度の新しいホストファミリーが見つかるまでの仮のホストファミリーでしたが、ホストマザーの提案により留学の終わりまで、つまりは新しいホストファミリーとしてこの優しい家庭に留まることになりました。今のホストファミリーには、フランスの家庭らしく、いつも溢れんばかりの愛情が満ちています。本当にこの家族と一緒に居ることができて嬉しいです。

学校や友達ともすこぶる順調に進んでいます。言ってしまうと、ホストファミリーを変えることができたのは、先生と友達のおかげです。教科によっては、授業についていけませんが、どの先生たちも親切に接してくれます。留学の初めに沢山のことを教えてくれたのは元ホストファミリーではなく、彼らでした。

9月に日本を出発してから約8ヶ月が経ちました。あと2ヶ月でこの留学は終わってしまいます。最後の最後までこの貴重な体験を思う存分に味わいたいです。

## 只今留学中

### 「SUOMI (フィンランド) 暮らし」

62期フィンランド派遣 小田島 朋花 (不来方高校)

フィンランドにきて8か月、ホームステイ生活も残り2か月。振り返ってみると、いろんなことがあり、そのたびに、たくさんの人を通して、経験を通して、自分なりに少しずつ成長してきたと思います。今日は、フィンランドの教育とフィンランド人から学んだ、人として大切なことについて書きたいと思います。

フィンランドには WILMA という生徒と学校がつながっているインターネットサイトがあります。そこには自分の時間割、先生からのメッセージ、自分の成績、出欠席、宿題の範囲、行事などが書かれています。私たちは毎日それをチェックし、時間割の変更はないか、授業の行われる教室の番号を確認したりします。またフィンランドでは、WILMA を使って自分で時間割を決めることが可能です。普通高校と職業訓練校を掛け持ちしている生徒もいれば、2年半で卒業する生徒も、3年半以上かけて卒業する人もいます。また留学に行く生徒もたくさんいます。その中で、彼らは卒業試験から逆算して自分の学習プランを組み立てています。フィンランドの学校は自由で、校則なんてありません。授業中の飲食も携帯

もOK! 18歳以上は大人にあたるので、たとえ学生でも18歳以上なら、運転、飲酒、たばこすべてがOKです。日本の先生がフィンランドの授業を見たら驚くのだろうと思うことの連続です。すべての授業機材が電子化されていて、スクリーンを見ながらの授業です。フィンランドの先生はいつも私たちに、調べ物の課題、プレゼンテーション、エッセイ…などの頭を使う課題を授業中に出してきます。日本では、模試の過去問、演習問題、労力だけを使う暗記、がメインです。それが勉強とよべるでしょうか? 一方フィンランドでは、教科書やPCや携帯を使って適切な情報を探し、まとめ、発表するという一連の作業の中で、頭が勝手に記憶していきます。先生は、自分から学ぶ大切さを、毎回の授業を通して教えてくれます。

最後になりますが、フィンランドでの学習、ホームステイ生活、出会った人、見たこと、聞いたことすべてのことが私の力になっていると思います。直感で選んだこの国に、また運命を感じています。(写真:凍った川を-20℃のなか、歩いた記念の写真です!)



\*\*\*\*\*

## イタリア留学

62期イタリア派遣 富田 理子 (不来方高校)

Ciao! こんにちは。私はイタリア留学中の富田理子です。イタリアに来てもう8ヶ月が過ぎます。この8ヶ月間で、私は素晴らしい経験をする事ができました。

私は北イタリアにあるブレシアというところに住んでいます。ホストファミリーは、ファザー、マザー、シスターと、2人の年上のブラザーがいます。私のホストファミリーは楽しくて本当に良い人達です。私はこのような素晴らしい家族の一員になれて、とても嬉しいです。毎日がとても、充実しています。

私の学校は、ブレシアにある理数科の学校です。家からは、バスで約1時間ぐらいかかります。私のクラスメートは、とても活発で、優しいです。イタリアの学校は、12時か1時に終わり、土曜日学校があります。最初は、このシステムにびっくりしましたが、今はとても慣れました。先生方は、とても親切で良い人達です。クラスメートが、ラテン語などの私がやらない教科をやる時には、他のクラスに行って、イタリア語と英語を他のクラスメートと勉強しています。なので、全部で8クラスに行くことに

なっています。このおかげで、学校では、たくさんの友達が出来ました。他のクラスのクラスメートは、とても興味深く、たくさんの質問をしてくれました。このように質問に答えたり、プレゼンテーションを行うことによって、日本のことや、私の使命である、震災のことについて伝えるという使命を果たせました。学校も勉強は、難しいですが毎日努力をして、頑張っています。

AFS ブレシア支部には、約7人の留学生がいます。彼らは、私の最高の友達でもあり、この友情は一生の宝物です。彼らからたくさんの異文化の違いを学び、受け入れ、お互い理解し合いました。これからもこの素晴らしい縁を大切にしていきたいと思います。

私は、この留学中にたくさんの刺激を受け、たくさんのお話を吸収しました。自分自身、心身ともに成長したと感じられます。この留学をして、私は本当の自分を見つけ、考え、学び、新たな自分に生まれ変わることができました。たくさんの経験をして留学前より、大人になった気がします。

帰国まで残り2ヶ月を切りました。残りの生活も悔いのないように、全力で楽しみ、たくさんのことに挑戦し、頑張りたいと思います。最後に私の留学に関わった全ての方々には、心の底からとても感謝しています。本当にありがとうございました。



アルプスを背に世界中からの AFS 生と



## “興味深いことを探して、自分の夢を見つけよう”

短期受入生 ソフィアン (フランス出身 釜石高校)

皆さんこんにちは！ 私はアバドゥ・ソフィアンです。17歳です。南フランスのモンペリエに住んでいて理系3年生の日本語コースです！ 3年生になったばかりですが、2年間日本語を勉強しています。

中学校のころから日本に興味があって、卒業してから日本語を教える高校に入ったわけです。それから日本語が大好きな私は様々な方法を使って熱心に勉強していました。日本について学ばば学ぶほど自分の進路がどんどん明確になってきました。そして留学する機会があって素晴らしい経験でした。その後、私はコリブリという日仏交流団体の代表として、それについてパリでスピーチしました。また、府知事山田様をはじめとした京都の使節団が、日本とフランスの繋がりの記念式典で、私の高校を訪れたときに私はその使節団の前で日本語でスピーチしました。

変わった考えかもしれませんが、日本の1番好きなのはなんだろうと聞かれたら、私は日本人と答えます。実は、私は前から日本人に憧れてきました。日本人は礼儀正しくて規則正しくて真剣だからこそ、その住んでいる環境は綺麗で安全です。実感してないかもしれませんが、ほかの国と比べたら、日本はとても治安がよく、清潔な国です。日本とは一番平和な国であるとはいえると思います。それはまさに、その住んでいる人々の影響と私はきちんと考えます。その考えは私の基です。またいろいろな理由がありますが、その基からの目標とは具体的に日本に住んで働くことであり日本人に理解されてその社会の一部になることです。

そのしっかりとした目標のためにすごく努力していて、私が欲しかったレベルにどんどん近づいています。実は、もともと私は、憧れてきた日本人に尊敬を見せたかったです。そのための一番いい方法は言語を修めることだと思います。しかし、そんなに日本に興味を持っていなかったらこんな出来事にならないだろうと思います。好きこそ物の上手なれ。目的があるからこそ努力したいです。目標とは、今なぜ勉強しているかとかかなげ苦勞しているかとかという疑問に意味を与えます。凹んだり気分が悪くなったり悩んだりするときに戦ってる理由を思い出さずだけで元気出せます。ちゃんとやりたいことがあると簡単に諦めないと思います。

釜石高校に留学してよかったです。当然

ですが誰も知らない場所にいると最初にちょっと不安ですが、生徒たちの優しさは本当に私を感動させました。興味を持って私に話しかけてくれて心から感謝しています。話さなくても、少しだけ微笑んでくれるだけで心強くてすごく嬉しかったです。残念ながら、ちょうどいい友達を作ってこれからだという気がするときにもう帰国しなくてはなりません。それでも一緒に絆を結んだ人たちにきっとまた会える気がします。また、藤森先生をはじめ、先生たちにお世話になりました。先生たちは8時まで一生懸命生徒たちの迷惑をみる姿をみて感動しました。本当に生徒たちが成長してほしくて素晴らしい先生たちです。結果的に、この留学はすごくいい経験でした。出会った人たちのおかげで私の日本語が上達して成長しました。こういう機会を与えてくれて文部科学省に感謝しています。日本語能力試験2級を合格できる気がします。これから東大を目指している私は次の留学が帰国なしになるようにします。

皆さんに言いたいことが通じたかと思います。人生とは長いものでありながら、私たちは愚かで、若いうちに、最も長い部分が大体決められているわけです。落ちたらまた直せないわけでもないですが目的とか夢とかがないと前には進められません。

今の私は自分の夢を見つけて何かのために努力して幸せです。人間として幸福でその充実を感じてほしいです。興味深そうに物事を眺めているいろんな経験をやってみてください。それから自分の目標とか夢とかを見つけてそれに目を離さないでください。人生は一つしかないもので本当にやりたいことをやったほうがいいと思います。そうすると充実な人生を送れるでしょう。大志を抱いて高く目指して夢を叶いましょう。

(本人の日本語作文そのままを掲載しています)



釜石高校クラスメートと

● 1年間の支部受入報告 (2016. 6月現在) ●

【平成27年度受入】

MEXT (文科省事業) 短期生 (10月3日～10月31日)

ソフィアン (Sofiane Abadou) フランス出身

H S: 釜石高校 H F: 川崎浩明様

リン (Vargdis Aaslund) スウェーデン出身

H S: 盛岡白百合学園 H F: 久保田好光様

日・欧 MIRAI (外務省事業) プログラム (12月18日～20日)

リアム (Liam Roe) アイルランド/ダブリン大学

H F: 中野俊一様

エメリー (Amelie Erxleben) ドイツ/ドイプブルグ・エッセン大学院

H F: 井上弘子様

アバイ (Abay Jumabayev) カザフスタン/ナザルバエフ大学

H F: 平田晃子様

【平成28年度春年間受入】

サラ (Sarah Dezeque) フランス出身

H S: 不来方高校 H F: 和田孝仁様

平成27年度 岩手支部収支報告

収入の部	寄付金	10,000 円
	会費	96,500 円
	その他の収入	138,690 円
	協会本部より	161,305 円
	繰越金	1,194,467 円
収入合計		1,600,962 円
支出の部	支部管理費	388,276 円
	協会本部分	122,305 円
	次期繰越金	1,090,381 円
	支出合計	1,600,962 円

■ 2017年派遣(第64期) 生  
中学生・高校生募集

高校時代の留学は、異文化の中に置かれた自分を見つめて、「新しい自分を発見する旅」です。皆さんも世界と自分を知るために応募してみませんか？

一般選考 A・B・C 日程

A 日程 試験日：6月12日(日)

選考会場：盛岡(盛岡駅西口アイーナ)

(一般選考 A の応募は締め切りました)

B 日程 募集期間：4月15日(金)～7月4日(月)

試験日：7月17日(日)

選考会場：仙台

C 日程 募集期間：7月20日(水)～9月16日(金)

試験日：10月2日(日)

選考会場：仙台

対象国：募集継続国(7月20日以降、AFS ホームページで確認してください)

試験内容：英語(ELTiS・80分)、一般教養(30分)の筆記試験と面接(15分程度)

選考手数料：21,600 円

詳細は AFS ホームページで確認のこと

会費等の納入ありがとうございました。

昨年度も皆様から AFS 岩手支部にご支援を頂き、誠にありがとうございました。会費、ご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただき、ご協力に心から感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《会費》 井上 義博 米沢 俊一 盛島 寛 工藤 弘幸 村上 暁子 伊藤 さや子 瀧本 俊一  
中川 玲子 諏訪 君雄 中村 道典 藤森 正文 立川 留美子 小田島 豊 富田 正  
松田 文平 晴山 健二 山口 碧 村上 晶子 新屋 委子 川村 俊幸 平井 博夫  
日向 真理子 箱崎 朋子 村中 あけみ 佐藤 賢吉 高橋 透 川崎 裕子

《寄付金》 横山 ユウ J A 全農いわて (ホストファミリー支援米)

会費のお願い 今年度も支部会費のご協力をお願いします。

支部会費：年 3,000 円 (支部会員)

支部会員 (支部員、派遣生保護者、リタニー及び保護者、支部活動に協賛する個人又は団体)

等振込先

ゆうちょ銀行 10190-17982571 (普通)  
口座名義：(公財) AFS 日本協会岩手支部

■ご寄付のお願い■ AFS は国際理解教育を推進しています。10代の高校生をはじめとしたより多くの人々に、異なる文化と接する機会を提供できるよう、AFS の活動にご支援を賜りたくよろしくお願い致します。

【ご寄付の方法】(公財) AFS 日本協会 (支部を含む) への寄付はいくらからでもしていただけます。

※ 詳しくは AFS のホームページをご覧ください。

「みちのく応援奨学金」の奨学生募集

【支給額】 プログラム参加費 (アメリカ・オーストラリア 160 万円、その他の国 140 万円) 及び留学準備金 20 万円

【対象】 東日本大震災および福島原発事故発生当時に被災地に居住または在学していた、日本から各国への AFS 年間留学生

【対象人数】 毎年 1～2 名程度

【奨学生の選抜】 一般選考 A・B で合格した者で、奨学金を希望する応募者の中から AFS 日本協会が選抜

【実績】 2012 年から 2016 年までに岩手、宮城、福島、茨城の生徒 12 名に支給しました。派遣生の留学先はドイツ、ハンガリー、オーストリア、フランス、イタリア、マレーシア、スイス、オーストラリア、インドネシア、チェコ